

誰もが暮らしやすい社会へ

2020年登別市市制施行50周年記念

12/19

あいサポート運動

～オリンピック・パラリンピック教育推進事業～



▲子どもたちに夢や目標に向かって努力を続けてほしいと将来に向けたエールを送る松元さん



▲組み合わせによって違った意味の言葉になる手話を学ぶ子どもたち

12月19日(木)、地方創生の実現に向けて市と包括連携協定を結んでいる、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と連携し、聴覚に障がいのある人で行うサッカー『デフサッカー』の日本代表・松元卓巳(まつもと たくみ)さんを講師に招き、幌別中学校体育館で『あいサポート運動』の一環とした講演と手話教室(市主催)を開催しました。

オリンピックやパラリンピックを通してスポーツがもつ価値への理解促進などに重点的に取り組んでいるオリンピック・パラリンピック教育推進校の拠点校である幌別中学校の全生徒と協力校である幌別小学校・幌別東小学校の5・6年生約300人を対象とした今回。

生まれつき聴覚のない混合性難聴の松元さんから、普段の生活の中で感じた苦労やデフサッカーとの出会いなどを聞くとともに、聴覚に障がいのある方のコミュニケーション方法の一つとして、手話のあいさつなどを学んだ子どもたち。

聴覚障がいの特性や必要な配慮などを学ぶとともに、障がい者スポーツへの理解を深めていきました。

最新の技術で疑似体験

第3回おれんじふぉーらむ

12/14

12月14日(土)、しんた21で、『第3回おれんじふぉーらむ』(登別市認知症初期集中支援チーム・市主催)を開催しました。

認知症についての理解を深めてもらうことを目的として講演などを行う同ふぉーらむ。今回は、認知症の症状の一つである幻視などをVR(バーチャルリアリティ)を通して体験。認知症の方が見ている世界を目の当たりにした参加者たちは、認知症の方への接し方などについて改めて話し合いました。参加者の一人である瀧川佳子(たきがわ かつこ)さんは「映像はとても現実的で恐怖を感じましたが、認知症の方の気持ちや望む対応を考える際の参考となりました。この体験を今後に生かしたい」と話していました。



▲先生に手伝ってもらいながら、一生懸命餅をつく子ども

おいしいおもちになあれ

登別子育て支援センターおもちつき

12/10

12月10日(火)、登別子育て支援センターで、『おもちつき』を行いました。

古くは、節目節目に行われていた『おもちつき』。今では、体験する機会も少なくなっていますが、今年も、毎年、多くの親子が参加しています。今年も、13人の小さな力持ちが挑戦。保護者からの応援を背に受け、自分の腕よりも長い『きね』を力いっぱい振り上げて、見事な餅をつき上げました。

もちつきの後には、つきたての餅を頬張り、満面の笑みをこぼしていました。



▲VR装置をつけて、映像を見る参加者